

# 物流拠点構想 骨子(1/3)

資料1

<p>○ 国際貨物取扱量</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 港湾国際貨物取扱量（コンテナ）は、長期的に増加傾向</li> <li>・ 全国的な航空貨物取扱量は概ね横ばいの状況</li> <li>・ 北九州空港 2020 年度過去最高の貨物取扱量（国内＋国際） 過去最高の国際貨物取扱量（全国第6位）</li> </ul>	<p>○ 労働環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トラックドライバーの有効求人倍率約「1」、全職種平均「1」に比べ高水準</li> <li>・ 高齢化が顕著、退職者の補充が懸念され、2028 年には約 28 万人不足と予測されている</li> <li>・ 荷待ち時間（平均1時間45分）、荷役時間（2時間40分以上）が長時間労働の一因</li> </ul>
<p>○ 国内貨物輸送量</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内貨物輸送量は、長期的に減少傾向、近年は横ばい</li> <li>・ 輸送機関別分担率は、トラックがトーンベース 91.6%</li> <li>・ トンキロベースで 51.3% を占める</li> </ul>	<p>○ 働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トラックドライバーは、2024 年から時間外労働の上限規制が適用開始されるため、配送距離、配送拠点の見直しが必要</li> </ul>
<p>○ 物流市場の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ EC 市場は、2018 年には、全体で 18 兆円規模、物販系分野で 9.3 兆円まで拡大し、今後も成長が見込まれる</li> <li>・ EC 市場の拡大に伴い、宅配便の取扱い件数も増加</li> </ul>	<p>○ SDGs への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDGs の観点（目標：経済成長と雇用、インフラ・産業化・イノベーション、持続可能な都市等）から物流は重要な産業</li> </ul>
<p>○ 国の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合物流施策大綱（物流 DX の推進等）（国交省）の策定</li> <li>① 物流 DX や物流標準化の推進によるサプライチェーン全体の徹底した最適化</li> <li>② 労働力不足対策と物流構造改革の推進</li> <li>③ 強靱で持続可能な物流ネットワークの構築</li> </ul>	<p>○ 持続可能性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近年は、災害（風水害等）が激甚化・頻発化している</li> <li>・ 物流面での BCP の策定が必要であるが、運輸・倉庫業は 15.9% 程度</li> <li>・ BCP の策定に伴い、梨点の見直しが高まる可能性がある</li> </ul>
<p>○ 環境への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略が公表</li> <li>・ 物流産業は、今後の成長が期待される分野</li> </ul>	<p>○ 物流施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保管型の倉庫のみならず、施設の多機能化（集配送や流通加工等）が進む</li> <li>・ 物流施設の敷地面積規模では、大型化の傾向がみられる</li> <li>・ 物流施設の整備動向は、近年買収型の物流施設の割合が増加傾向</li> <li>・ 開発主体は、不動産業者によるものが増加傾向にあるなど多様化している</li> </ul>
<p>○ 九州の物流（自動車・鉄道・海運）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体量は、九州発が九州着を上回る貨物量。発貨物量の多さは、主に海運による貨物量の差。</li> <li>・ 自動車・鉄道は着貨物量が上回る。</li> </ul>	<p>○ 本市のポテンシャル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地勢的優位性：九州と本州の結節点。東京と上海の中間に位置し、発展著しいアジアのマーケットに近い立地環境</li> <li>・ 道路：九州道と九州道の結節点であり、高速道路網が充実</li> <li>・ 鉄道：北九州貨物ターミナル駅は、鹿児島本線と日豊本線の中継拠点で、九州～本州間の全ての貨物列車が停車することから、九州最大の便数</li> <li>・ 空港：国際貨物定期便週 4 便（2021.11.5～）</li> <li>・ 港湾：九州・西中国で唯一、24 時間利用が可能</li> <li>・ 内航：フェリー航路 6 航路、ROR02 航路</li> <li>・ 西日本最大級のフェリー基地（九州のモーダルシフト拠点）</li> <li>・ 【外航】 37 航路 154 便/月の国際定期コンテナ航路</li> </ul>
<p>○ 福岡県の物流（自動車・鉄道・海運）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福岡県着が福岡県発を上回る。</li> <li>・ 九州 7 県からの発貨物に占める本市のシェアは、関東 32.4%、関西 20.0%</li> <li>・ 九州 7 県への着貨物に占める本市のシェアは、関東 18.8%、関西 20.2%</li> </ul>	<p>○ 物流機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北九州港、北九州空港の機能強化が必要</li> <li>・ 物流道路の青まな整備と適切な維持管理が必要</li> <li>・ 倉庫需要に対し、供給用地が不足している感がある。</li> <li>・ 産葉の集積・高度化という市の特徴に合った物流施策が必要</li> </ul>

## 物流を取り巻く現状

## 本市の現状

## ニーズ

## 課題

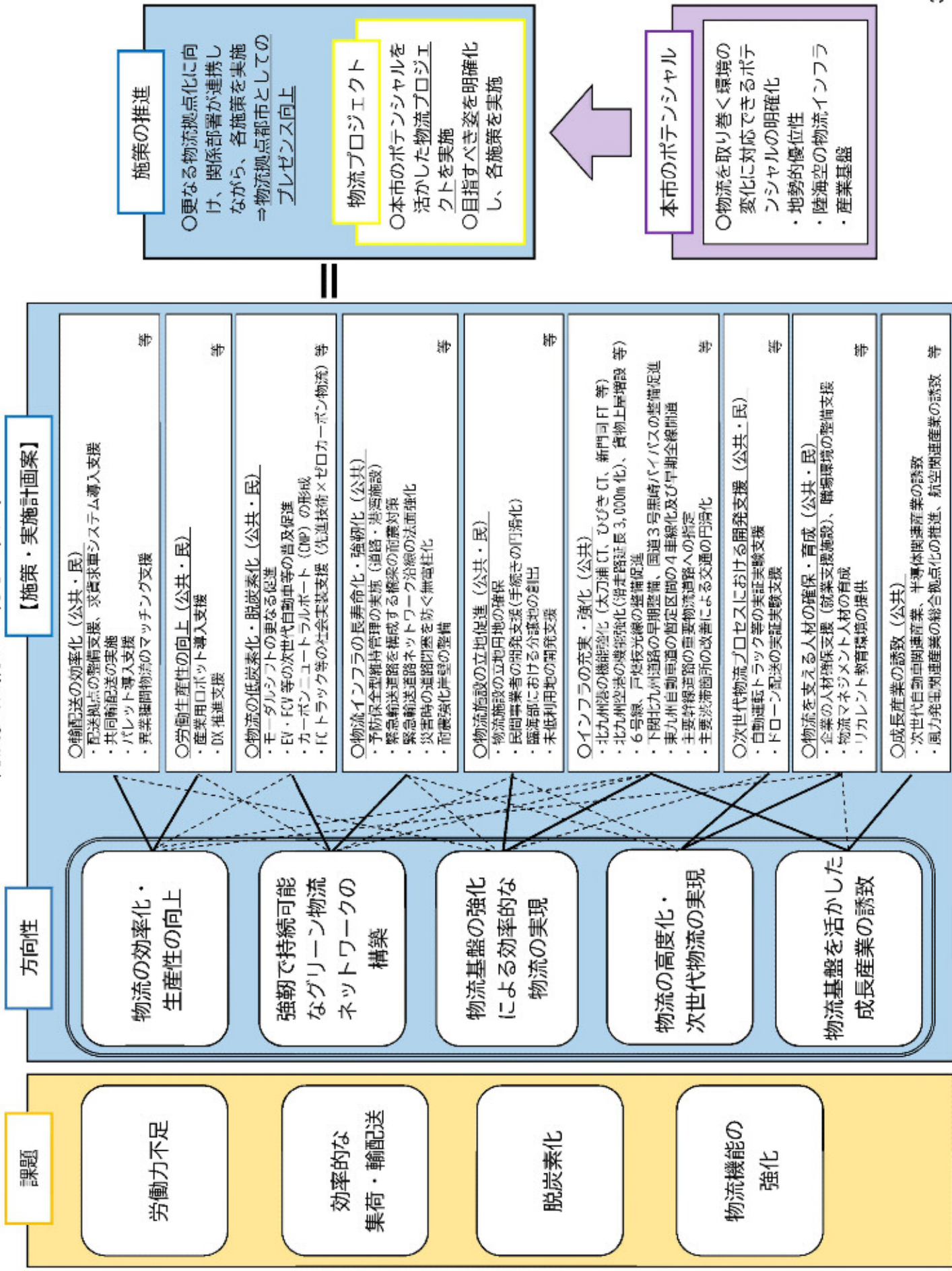
労働力不足

効率的な  
集荷・輸配送

脱炭素化

物流機能の  
強化

# 物流拠点構想 骨子 (2/3)

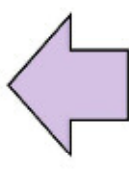


## 施策の推進

○更なる物流拠点化に向け、関係部署が連携しながら、各施策を実施  
⇒物流拠点都市としてのプレゼンス向上

## 物流プロジェクト

○本市のポテンシャルを活かした物流プロジェクトを実施  
○目指すべき姿を明確にし、各施策を実施



## 本市のポテンシャル

○物流を取り巻く環境の変化に対応できるポテンシャルの明確化  
・地勢的優位性  
・陸海空の物流インフラ  
・産業基盤

ポテンシャル

地勢的優位性

- 九州と本州の結節点
- 東京と上海の中間に位置し、発展著しいアジアのマーケットに近い立地環境

道路

- 九州道と東九州道の結節点であり、高速道路網が充実
- 九州管内では、本府を起点に西回り、東回り両方可能なことから、平時は、効率的な配送が可能となり、災害時は、物流ルート寸断リスクが低減
- 下関北九州道路により、西中国エリアの経済圏もさらに拡がり、優位性が更に向上

平時も災害時も交通アクセス確保

北九州港

- 【内航】フェリー6航路、RORO2航路
- 海上輸送は、輸送単位当たりのCO2排出量が営業用トラックの約6分の1
- 首都圏、関西圏、中部、四国、沖縄への航路を有し、便数も充実

九州エリア最大のモーダルシフト拠点

- 【外航】37航路154便/月の国際定期コンテナ航路
- 中国、韓国、台湾を中心にアジア各港との間に豊富な航路を有する

アジアへの輸出入の拠点

産業基盤

- 自動車、半導体、素材・部品等を中心とした産業が集積・高度化しており、近年注目されている環境・エネルギー産業の立地も進む
- 本市を囲むように自動車メーカーの工場（トヨタ自動車九州、日産自動車九州、日産車体九州、ダイハツ九州、マツダ）が立地（全国シェア17.3% 2019年度）
- 北九州圏は、全国で4か所指定された基地港湾のうちの一つであり、風力発電関連産業の総合拠点化を推進

鉄道

- 発着トン数全国6位（2020）
- 鉄道輸送は、輸送単位当たりのCO2排出量が営業用トラックの約13分の1
- 鹿児島本線と日豊本線の中継拠点で、九州～本州間のすべての貨物列車が停車することから、九州圏最大の便数
- 北九州貨物ターミナル駅は、24時間休日でセポート

九州エリアのモーダルシフト拠点

北九州空港

- 国際貨物定期便 大韓航空 週4便（水・木・金・土）（2021.11.5～）
- 九州・西中国で唯一、24時間利用が可能
- 海上空港であることから、特殊貨物のSea&Air輸送が可能
- 滑走路の3000m化により、航空貨物需要のある欧州・北米への航路が可能

九州・西中国エリアの輸出入の拠点

物流リーディングプロジェクト

- 北九州港と北九州空港の国際物流拠点化
  - 北九州港への国際コンテナ航路の寄港と北九州空港への国際貨物便の就航を維持・拡大することにより、企業の立地環境を向上させ、本市経済の国際競争力を強化
  - 航路・路線誘致、集貨、卸貨、機能強化の取組を推進することにより、貨物の増加を図り、また貨物の増加がこれらの取組を加速させる好循環サイクルの構築を目指す
    - ▶ 北九州港と北九州空港の機能強化
- 九州エリアの物流集約拠点の形成
  - 九州と本州の結節点である地勢的優位性を活かし、九州発着物（EC、食品、農産物等）の集約拠点を整備し、貨物を大ロット化することで効率的に、首都圏、関西圏、海外へ輸送を行う
  - コスト・リードタイム等に応じ、陸海空の適切な輸送モードで大ロット輸送（効率的な輸送）を行う
    - ▶ 民間事業者による物流施設の開発促進
    - ▶ 物流事業者等による物流施設誘致
    - ▶ 物流施設の高度利用・機能強化への取組み
    - ▶ モーダルシフト促進、拠点化実証プロジェクト実施

- 九州・西中国エリアへの配送拠点の形成
  - 九州各地、西中国エリアとのアクセス性に優れ、人材の安定的確保が可能となる本市に九州・西中国エリアへの配送拠点の整備を促進
  - 今後も成長が見込まれるEC市場や一定期間の保管が可能な医薬品、家電、部品等（サブプライムエーンの構築）の物流施設を立地する
    - ▶ 民間事業者による物流施設の開発促進
    - ▶ 物流事業者等の物流施設誘致
    - ▶ 物流施設の高度利用・機能強化への取組み

- 物流基盤を活かした成長産業の拠点形成
  - 本市の物流基盤やその機能強化を背景に、成長産業（次世代自動車関連産業、半導体関連産業、風力発電関連産業、航空関連産業）を誘致することによって創貨を促進し、新たな物流を形成する
    - ▶ 次世代自動車関連産業・半導体関連産業の立地を推進、風力発電関連産業の総合拠点化を推進、航空関連産業の立地を推進

- 産学官連携による物流施設推進体制の構築
  - 物流の抱える諸課題の解決や、次世代を見据えた持続可能な物流を実現するため、物流に携わる事業者、有識者、行政で構成する「(仮称)物流懇話会」を設立する
  - 勉強会やシンポジウム等を通して、物流の抱える課題の共有や、その解決のために必要な方を深化していくとともに、課題解決に向けた機運の醸成を図る
    - ▶ 物流施設推進体制構築

- 物流施設の集積用地の確保に向けた取組
  - 交通アクセスの優れるエリアに物流関連施設の集積を図る
  - 民間開発の支援を強化（民間活力の導入）

各種輸送モードを組み合わせ、多種多様な物流ニーズと時代の変化に対応できる街を目指す  
陸・海・空の結節点周辺エリア（物流施設誘導エリア）を中心に、物流関連施設の集積を図る

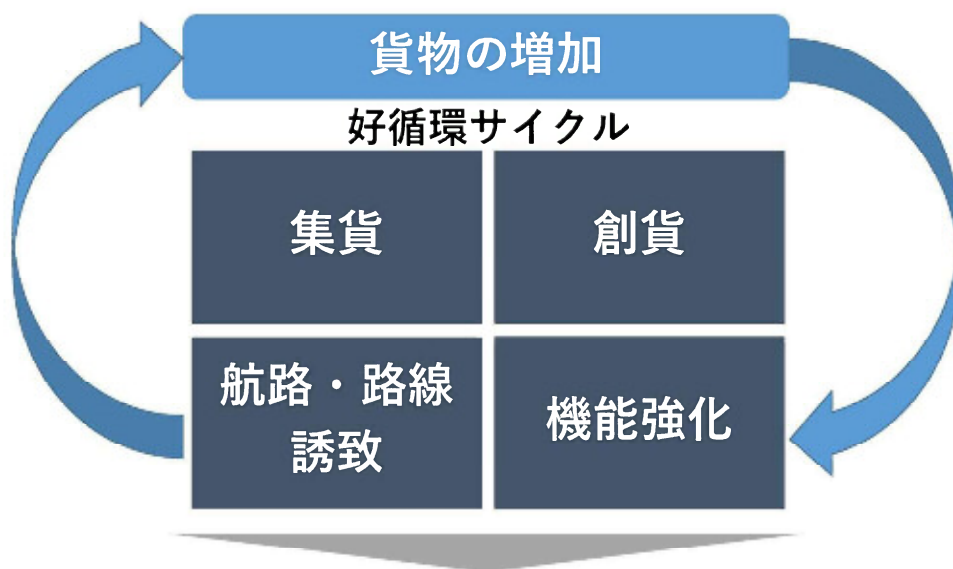
## 北九州港と北九州空港における国際物流拠点化

## 1 背景

- 日本を代表する産業都市として発展してきた本市には、鉄鋼や化学などの素材産業、金属や機械などの加工組立産業を中心にものづくり産業が集積している。また、九州・西中国には、自動車関連産業や半導体関連産業が集積している。
- これらの企業は、近年のグローバル化の進展に伴い、国境を越えた国際分業体制を構築し、広域化・複雑化したサプライチェーンマネジメントを展開している。
- このため、各企業では、海路・空路の輸送手段を組み合わせ、用途に応じてコストとスピードを最適なバランスにすることによって、生産工程全体のコストを削減することが重要となっている。

## 2 取組の方向性

- 北九州港への国際コンテナ航路の寄港と北九州空港への国際貨物便の就航を維持・拡大することにより、企業の立地環境を向上させ、本市経済の国際競争力を強化することを目的とする。
- 本市をはじめ九州・西中国に立地し、グローバルに展開する企業のサプライチェーンマネジメントに資する多方面・多頻度の物流サービスの充実を目指す。
- 航路誘致、集貨、創貨、機能強化の取組を推進することにより、貨物の増加を図り、また貨物の増加がこれらの取組を加速させる好循環サイクルの構築を図る。



北九州港と北九州空港の物流拠点化を実現

### 3 今後の取組み(案)

#### 北九州港(太刀浦コンテナターミナル)

- 航路誘致、集貨、創貨、機能強化の取組を推進
  - 新規船社の誘致
  - ガントリークレーン等の更新
  - 蔵置能力の向上
  - デジタル物流システムの拡充

#### 北九州港(ひびきコンテナターミナル)

- 航路誘致、集貨、創貨、機能強化の取組を推進
  - 新規船社の誘致
  - 製造業物流事業者の誘致
  - 耐震強化岸壁の整備

#### 北九州空港

- 路線誘致、集貨、創貨、機能強化の取組を推進
  - エアライン誘致
  - 輸出入通関機能の強化
  - 特殊大型貨物航空会社の誘致
  - 滑走路の3000m化
  - 貨物上屋の拡充